



糖尿病

■ 病気の概要

インスリンが不足または機能しないため、血糖値が慢性的に高い状態が続く病気です。犬はインスリン分泌が低下するタイプ、猫はインスリンが効きにくくなるタイプが多いです。適切な治療（インスリン注射・食事療法）で、充実した生活を送ることができます。

■ 主な症状（飼い主さんが気づくサイン）

- ・水をたくさん飲む（多飲）
- ・おしっこが多い（多尿）
- ・よく食べるのに体重が減る
- ・元気がない・疲れやすい
- ・白内障（犬：目が白くなる）
- ・後肢がふらつく（猫）

■ どんな検査をするの？

- ・血液検査（血糖値・フルクトサミン）
- ・尿検査（尿糖・ケトン体・尿路感染の確認）
- ・腹部超音波検査

■ 治療方法

内科治療

- ・インスリン注射（毎日1～2回、飼い主さんが自宅で実施）
- ・食事療法（高タンパク・低炭水化物食または高繊維食）
- ・フルクトサミン測定による長期血糖管理の評価
- ・合併症（感染症・白内障）の管理

外科治療

- ・白内障手術（眼科専門施設へのご紹介）
- ・重篤な感染症の外科処置

■ ご家庭で気をつけること

- ・ 毎日決まった時間に食事とインスリン注射を行う
- ・ 食事をしっかり食べたことを確認してからインスリンを注射する（食欲がないときは注射前にご相談ください）
- ・ 低血糖のサイン（ふらつき・けいれん）→すぐに受診
- ・ 定期的な体重測定
- ・ 感染症（皮膚・泌尿器）

■ よくある質問

Q. 自宅でインスリン注射できますか？

A. 針は細く、慣れれば問題ありません。初回は当院でスタッフが丁寧にご説明します。

Q. 完治しますか？

A. 犬は一生治療が必要なことが多いですが、猫は体重管理などにより寛解する（血糖値が安定しインスリン注射が不要な状態になる）ことがあります。

Q. 低血糖が心配です。

A. 食事を食べないときに注射すると低血糖になることがあります。ふらつき・けいれんが起きたらすぐにご連絡ください。

Q. 食事は何を与えればいいですか？

A. 糖尿病用の療法食または高タンパク・低炭水化物食をお勧めします。毎食同じ量を同じ時間に与えてください。

■ なつ動物病院での診療について

インスリン注射の実技指導を行い、自宅管理をサポートします。フルクトサミン測定でコントロールを定期的に評価し、インスリン量を調整します。気になることがあればいつでもご相談ください。

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください